



「Celebrate Asia 音楽会：アジアの夜」 @ ベナロヤホール

アジアの音楽文化が集結したイベント「Celebrate Asia 音楽会：アジアの夜」が1月22日、シアトルダウンタウンのベナロヤホールで開催された。今年2回目を迎える同イベントは昨年と同様、シアトルシンフォニーと地元アジア系ミュージシャン等による共演で、今年のゲストミュージシャンはモンゴルの馬頭琴奏者と中国出身の注目若手バイオリン奏者チャンユー・リー。

元デザイナーによるチャイニーズ風ドレスに身を包んで登場し「シアトルにはアジア系の人々が多く住んでいますが、コミュニティ間の交流の場がありませんでした。そこで世界共通語である音楽を分かち合う場所としてこのイベントが生まれました」と同イベント発足の背景を説明。彼女の暖かい人柄とジョークを交えた司会で会場が一気に和む。指揮者は昨年と同様シアトルシンフォニーのキャ



© Don Pham/Northwest Vietnamese News

馬の大群が草原を走る音を馬頭琴で表してみせるリー・ボー氏と、それを見守るシアトルオーケストラの面々

本番は7時半開始だったが、ロビーではプリショー（前座）が6時半から行われた。地元の音楽学校の生徒によるアンサンブル演奏に続いてフィリピンのギタリスト、アンジェロ・ピッサロの息をもつかせぬダイナミックなエレクトリックギターが始まると、音楽に引き寄せられるように人の輪がどんどん広がっていく。威勢のよいドラムの音とともに登場したのは中国の獅子舞。詰めかけた人々に愛嬌を振りまく獅子舞でお祭り気分が盛り上がる。

メインホールでの司会を務めたのはKINGテレビ局のローリー・マツカワ。地

元デザイナーによるチャイニーズ風ドレスに身を包んで登場し「シアトルにはアジア系の人々が多く住んでいますが、コミュニティ間の交流の場がありませんでした。そこで世界共通語である音楽を分かち合う場所としてこのイベントが生まれました」と同イベント発足の背景を説明。彼女の暖かい人柄とジョークを交えた司会で会場が一気に和む。指揮者は昨年と同様シアトルシンフォニーのキャロリン・クアン。エネルギーに満ちた解説に、昨年以来ファンになってしまった。インドのバンドが映画『スラムドッグ\$ミリオン』で使われた『ジャイ・ホー』を演奏、続いてシンフォニーによるメンデルスゾーンの『結婚行進曲』の後、待ち望んだ馬頭琴奏者リー・ボーとシアトルオーケストラの共演が始まる。馬頭琴の哀愁に満ちた音色にシンフォニーが奥

行きを与えて、悠久のモンゴルの大草原が目に見えようだった。第2部は韓国の「アリラン」合唱から始まり、おなじみビゼーの『カルメン』、そしてトリを決めたのは中国人バイオリニスト、チャンユー・リー。全身で演奏する感情に溢れる音色はただ息をのむばかりだ。素晴らしい演奏に堪能して家路につく観客を「ワンワールド太鼓」の迫力ある和太鼓のリズムが見送ってくれた。

今年の入場客は2500人でチケットは完売だったそうだ。今年行きそびれた人は、来年こそはこの感動を味わって欲しい。